

## 印西大師 第60番 多々羅田・太子堂 (多々羅田青年館)

1 名称 (No.060)〔手引鏡：凧堂〕〔資料館：たこ堂〕〔行程表：たこ堂〕

2 場所 印西市多々羅田44 多々羅田青年館  
草深・天王前から道程約1500m

GPS座標 35.79318711255349, 140.12927708218595

3 由緒 真言宗

太子庵は弁天前44にあり真言宗で結縁寺に所属し聖徳太子を本尊とする、現青年館敷地（平成6年寺院堂庵明細表）

本尊は天正18年(1590年)、利根川対岸の布川城主豊島氏が豊臣方の攻撃から逃れ、この地に落ち延びた時、布川城から担いできたと伝わる。

太子像は父用明天皇の病氣平癒を祈願して薬の

杓子を持つ孝養像で、札所前の多々羅田青年館にある厨子の中に安置されている。33年に一度開帳される秘仏で、直近では平成23年に開帳されている。(印西歴史愛好会編「印西大師八十八か所」)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。台座正面に文政13年(1830年)の銘あり(印西町調査報告書(追録))。

5 境内 多々羅田青年館の敷地に大師堂がある。昭和53年と平成23年の聖徳太子尊像開扉記念碑があるので、この年に太子像が御開帳(御開扉)されたものと思われる。

6 写真 (2023.10撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



聖徳太子尊像開扉記念碑と大師堂



多々羅田青年館



石造物

7 情報

(1) 印西大師 第60番 たこ堂 御詠歌 (泉倉寺本による)

縦横に峰や山辺に寺建(たて)て 普(あまね)く人を救ふものかな

四国八十八ヶ所 第60番 真言宗御室派 石鉄山(いしづちざん) 福智院 横峰寺(よこみねじ)

本尊 大日如来 (愛媛県西条市) 写し

(2) 印旛郡誌

多々羅田村字弁天前にあり 結縁寺持にして真言宗なり 聖徳太子を本尊とす 傳へ云ふ昔源平二氏互に武将を以て勢を争ふや保元平治の乱に源氏大に破れし時下下総千葉に千葉氏ありて房総半島を領したりと云ふ 而して当時千葉氏の臣に常陸の方布川に豊島紀伊守一日近郷の将土岐某のために攻められて敗れて逃れて本村多々羅田に走り太子の像を負い来りて之に安置し多々羅田を開発して之に住するに至れりと云う 而して多々羅田太子堂なるものは實に豊島氏の傳本尊なりと今に豊島家存し宗家は世々獣医を業とし支家数幹あり 信徒三十九人 (印旛郡誌)

(3) 多々羅田村 (太子堂)

多々羅田の弁天前には昭和45年まで四間四方の太子堂があったが、現在は太子堂跡に青年館が建てられ、ここに太子堂に納めた厨子が安置されている。像高60ないし70cmで、聖徳太子の孝養像である。孝養像とは太子が父君用明天皇の病氣平癒を祈願して薬の杓子を持たれている像である。厨子の高さは2m近くもあろうか。33年に1度の御開帳であり、祭日は毎年10月9日である。この像の由来は、天正18年(1590年)に小田原の北条方にくみした布川城主豊島紀伊守が、布川城落城の際に徳満寺に安置されていた太子像を負って多々羅田に走り、現在地に堂を建てて祀ったという。したがって、太子像は豊島氏の本尊であった。のちに結縁寺の所持になり、現在は多々羅田で管理している。しかし、県の専門家の鑑定をうけたところ、太子像の作成年代は元禄期であるという。(山本忠良著「印西外史」より)

(4) たこ堂

たいし(太子)堂ではなく、なぜ「たこ」堂なのか。だいし(大師)とたいし(太子)が紛らわしいからなのか。それとも多幸の意を込めてたこ堂なのか。